ClickShareは、PCに挿した「ClickShareボタン」を押すだけで、PC画面をワイヤレスで投影できるシステムです。ソフトウェアのインストールや社内の無線ネットワークに入る必要はありません。社内だけでなく、ゲストとのディスカッションでも活躍します。

ClickShare

内田洋行　株式会社内田洋行 オフィス事業本部 企画部　〒104-0033 東京都中央区新川2-3-9 内田洋行新川第二オフィス　お問い合わせ TEL.0120-077-266

オフィス環境改革

生産性・創造性向上のために

オフィス環境の改革は働く人のモチベーションを高めて、業務の生産性、創造性の向上につながる。そうした中、オフィス用プロジェクターは議論を効果的に行うツールへと進化している。発光ダイオード（LED）照明システムは、オフィスの省エネルギーや、心地よい空間の創造などに貢献している。オフィスでのコミュニケーションスタイルや、働き方で新たな取り組みが展開されている。

高機能製品で需要拡大

省エネ・社内活性化に寄与

進化した製品

事務機械はオフィスワークに欠かせない製品の一つだ。複写機・複合機やページプリンター、プロジェクター、電卓、電子辞書、デジタル印刷機、シュレッダー、電子黒板、タイムレコーダーなどがある。業務上の課題に対する解決や、業務の効率アップ、快適な環境づくりなどで活躍している。

これらのうち、プロジェクターはプレゼンテーション時に必須のツールであり、会社、セミナー会場でなじみの機器となっている。ビジネスにおけるプロジェクターの役割は、単にスクリーンや壁に映像やデータを投写するだけのプレゼンテーションツールから、会議や議論を効果的・効率的に行うためのツールへと進化している。プロジェクターは超短焦点などの高機能製品による今後の需要拡大が期待されている。

例えば、進化した製品として、電子ペンで書き込みができる機能を備えた、超短焦点モデルのプロジェクターがある。投写面に対してほぼ真上から投写することができる。このため、投写面の近くに人が立っても影ができにくく、投写面上に書き込む際に利便性が高い。また、投写した画面の上に電子ペンで自由に書き込みができるため、デジタル情報とアナログ情報を簡単に融合できる。書き込んだ内容をデジタルコンテンツとしてUSBメモリーやネットワーク上に保存したり、対応プリンターで印刷したりすることが可能なため、会議内容の共有がスムーズになる。

こうしたプロジェクターを活用することによって、いろいろな形式の会議が実現できる。プレゼンテーションや、部内会議、図面確認、他拠点とのビデオ会議などだ。図面確認では設計図などをテーブルに投写して間近で検討することが可能だ。

電力需給の問題や二酸化炭素（CO_2）排出削減の観点から、一層の消費電力削減が求められている。オフィスでは照明エネルギーの割合が全体の約30％を占めている。そのため、照明の省エネルギーと快適性をさらに向上させる必要があり、照明器具の高効率化と照明制御システムの最適化が欠かせなくなっている。

照明　高効率に

具体的にはロビーやラウンジ、作業空間である執務室、会議室、商談コーナー、廊下、化粧室、エントランスなどに対して、用途や場所に適したLED照明器具がラインアップされている。

例えば、執務室では一辺が600ミリメートルのグリッド天井用に、従来の一般蛍光灯器具に換えてLEDベースライトを採用することで約52％の省エネルギーを実現。廊下などの一般共用部に設置する照明では、従来の蛍光灯ダウンライトをLEDダウンライトにすることで約47％の省エネルギーになる。

さまざま照明制御システムが提案されている。

従来の照明システムは点滅回路ごとに制御されており、執務室のレイアウトが変更されるたびに回路変更、配線工事が発生していた。それに対して配線工事を必要とせず、携帯型パソコンでの設定変更によって、グループ化された照明器具の1台から変更と点灯、調光、消灯の運用が可能な制御システムが登場している。

照明におけるセンサー制御には多様な方式が採用されている。人が不在かどうかを検知するために利用されている人感センサーでは、以前から赤外線の変化を検知する焦電型が主流だ。しかし、小さな動きは検知できず不在と認識することがあった。これに対して、画像認識技術で撮影した画像から小さな動きでも検知して、人検知が可能な撮影素子人感センサーが開発されている。

この他、入退室管理システムによって、社員の在場エリアを特定し、照明を無駄なくコントロールすることができる。

照明器具の個別制御だけではなく、空調設備など他の設備も含めて、管理システムで連携することによって、より高度なオフィスソリューションが可能になる。

LED照明はオフィスの消費電力の削減に貢献するだけではない。色温度可変のLED照明によって、室内にいながらも1日の時間の流れが視覚的に体感できる光環境をつくり出すことが可能だ。例えば、白色は朝の爽やか光。気持ちを活性化させる。電球色は暖かみのある、落ち着いた光。こちらは夕方の光を演出する。

金融機関の営業室・現金自動預払機コーナーや、地下の店舗共用通路では、色温度可変のLED照明で自然光の変化を疑似的に再現して、心地よい空間の創造につなげている事例がある。

空間への投資

さまざまな経営課題に対して、オフィスの空間づくりを考えることで解決しようとする動きがある。社内コミュニケーション活性化のためのスペースやツールで生まれたアイデアが、製品やサービスを開発、あるいは向上させるきっかけとなる。そうしたスペースやツールの一つとして、社員が自然に集まるマグネットスペースが設置されている。

マグネットスペースは書籍や雑誌の閲覧コーナーやコーヒーメーカーを備えたキッチンコーナーなどを一カ所に集め、そこでちょっとしたミーティングが行えるようにした空間だ。自然に人が集まり、偶然のコミュニケーションを創出する場となる。人が集まり、一人ひとりの情報が出会うことで、全く新しいアイデアが生まれる大きなチャンスになるというわけだ。例えば、拠点集約に伴う移転を機に、各階にマグネットスペースを設置した企業がある。

情報通信技術（ICT）企業は、オフィスのリニューアルを機に、自ら創造的なオフィス空間で働き、自社ソリューションを活用することで、ワークスタイルの変革を実践している。デスクワークではオフィス全体をフラットでオープンな空間として、各自の席を自由に選ぶことができる。フロアを自由に移動しながら働くだけではなく、まるで自席にいるように情報を整理して素早く使いこなせる。

事務機械企業は移転を機に、自分の席を自由に選択するスタイルが定着した。そこには社員の意識改革とともに、固定電話を廃止して、外線と内線が兼用の携帯電話端末に切り替えるなど、通信インフラの整備もあったようだ。

一方、デスク席を自由に選択するオフィス環境を、補うような提案や取り組みがある。

視線や音などの刺激が多いオープンオフィスの中で、じっくりと考えて、今やるべきことに集中したい時のための個人ワーク席だ。高さのあるパネルで背後からの視線をカットするとともに、ゆったりとワイドなテーブルで、より居心地を良くするなどした。

また、ある大手企業はデスク席を自由に選択できるワークスタイルを導入した。ところが、部署など一定グループのコミュニケーションが不足気味になった。それを補うために、そのグループは曜日を決めて、共用の会議室でミーティングと仕事を一緒に行うルールを取り入れた。

日本オフィス家具協会（東京都中央区）は、2013年3月に経営層をターゲットとして、オフィスに関する考え方や満足度などを調査した「経営者アンケート調査報告書」をまとめた。その結果、経営層の約60％が「オフィスに対する支出は経費でなく投資である」とする回答を得た。さらに、この調査を行った同協会の顧客政策委員会は、14年2月から複数の経営層へのインタビューを開始。9、10月ごろに経営層目線での「オフィス投資価値」を示すことを狙いとした報告書にまとめる予定だ。

テーブルに投写して図面の確認が可能（エプソン販売提供）

社員が自然に集まるコミュニケーション空間（内田洋行提供）

有力企業の製品・技術〈順不同〉

エプソン

エプソンは3月27日までの限定でプリンターやプロジェクター、会計ソフトウエアなどのビジネス向け商品を求めやすい価格で販売するキャンペーン「お得祭り　2014」を開催している。

キャンペーンでは同等クラスの同社ページプリンターと比べてプリントコストが2分の1の低ランニングコスト・低消費電力で、オフィスでの経費節減に貢献するインクジェットプリンターを販売。どこに置いても画面のゆがみを簡単に補正する機能を搭載したプロジェクターを「携帯80型ワイドスクリーン」や「サービスパック3年」付きで提供中。同社ビジネス向け商品は大規模オフィスから個人事業主までの多様な場面で使われている。

日立機材

日立機材は床下の配線用空間を空調として利用する床吹き出し空調フロアシステム「美風」で、オフィスの省エネルギーに貢献する。床下から空気を送り、人が活動する床上約1・7㍍の空間を効率的に空調できる。温度のムラがなく、穏やかな気流で空調音を大幅カット。

また天井吹き出し空調と比べて冷房時の温度を高めに設定でき、消費エネルギー約10―15％の削減が可能。床下から空調することで天井の仕上げボードが不要となり、天井・照明の自由なデザインを選択できる。床板には開口率16・1％のスチール製OAフロアを使用した。

内田洋行

内田洋行は空間的なアプローチと情報通信技術（ICT）を組み合わせて、コミュニケーション支援により重点を置いたソリューションを展開している。

会議室やミーティングスペースで創造性を高めて多様な考えやアイデアを生み出すには、情報の流通量を増やす仕掛けが必要だ。そこでパソコンに挿入したプレゼンテーション機器「ClickShare（クリックシェア）ボタン」のボタンを押すだけで、パソコン画面を無線で転送して表示機器へ投影できるシステム「ClickShare」を発売した。討議を妨げずに多くの情報を発信・共有することで、新しい発想が生まれて会議の活性化につなげる。

エム・システム技研

エム・システム技研の「40形直管LED　EZSWITCH（イージースイッチ）」は、既存の蛍光灯器具がグローやラピッド、インバーター、1灯式、2灯式でも工事を必要とせず「簡単（イージー）」に切り替え（スイッチ）」できる画期的な照明器具。低消費電力・長寿命の発光ダイオード（LED）に変更できて、初期導入費用も運転費用も抑えられる。

さらに蛍光灯器具が寿命や故障で使えない場合、交流電源を直結すれば続けて使えるようにした。昼白色と白色タイプの他、オプションでブルーライトを軽減したタイプを用意。別売りで防水蛍光灯器具対応の防水チューブを追加するなど、幅広いニーズに応える。

「床吹出空調用OAフロアシステム美風」のお問い合わせは本社内装営業部　TEL. 03-3615-5431　FAX. 03-3615-5408

日立機材株式会社
〒135-8363 東京都江東区東陽二丁目4番2号 http://www.hitachi-kizai.co.jp/
●札幌(011)708-1177 ●東北(022)213-5595 ●関東(027)322-9411
●横浜(045)548-9881 ●中部(052)582-3356 ●北陸(076)233-5260
●関西(06)6395-2154 ●中四国(082)240-1630 ●九州(092)452-0341